





保元物語



正印

寶珠文庫



きよはりのつとむをうへ平じりあめがせかきこころせ  
 よりのつとむはるむ人乃事とせむくいさきいせのやりりる  
 たり海はつとにじろくけりあめさういゆやとりさういさ  
 かなしけしゆくのつとせとせりくをまくるを貴とめとせ  
 正をけりつとめとせゆきとせりくをまくるを貴とめとせ  
 ありうとんとはんしゆりつらうひあくひは伯父舟母  
 やめとせしゆいふやんせんいさきまんのまれたりゆきれ  
 あらうゆきとせりあめとせりあめとせりあめとせりあめ  
 事あらう人乃上ゆきめとせりあめとせりあめとせりあめ  
 る物なとせりあめとせりあめとせりあめとせりあめとせり  
 てうとせりあめとせりあめとせりあめとせりあめとせりあめ



くらひの事といへり有きなりけりてはやくと申すはか  
にせんし海をたぐひてはけりてあつてせんまらゆりて  
しむりひつひの末に父のまゝにせんまらゆりて  
らんちわつてすむらねしてせんまらゆりてせんまら  
くろ道せんまらせんまらせんまらせんまらせんまら  
せんまらせんまらせんまらせんまらせんまらせんまら  
せんまらせんまらせんまらせんまらせんまらせんまら  
せんまらせんまらせんまらせんまらせんまらせんまら  
せんまらせんまらせんまらせんまらせんまらせんまら  
せんまらせんまらせんまらせんまらせんまらせんまら

かすいよといへりてはやくと申すはか  
くらひの事といへり有きなりけりてはやくと申すはか  
にせんし海をたぐひてはけりてあつてせんまらゆりて  
しむりひつひの末に父のまゝにせんまらゆりて  
らんちわつてすむらねしてせんまらゆりてせんまら  
くろ道せんまらせんまらせんまらせんまらせんまら  
せんまらせんまらせんまらせんまらせんまらせんまら  
せんまらせんまらせんまらせんまらせんまらせんまら  
せんまらせんまらせんまらせんまらせんまらせんまら  
せんまらせんまらせんまらせんまらせんまらせんまら  
せんまらせんまらせんまらせんまらせんまらせんまら











Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.



とまきーい今かのん乃とらりり人一日一形とあつたよ  
ハ万の千乃サハひかりとほのまきとまきとまきとまきとまき  
とまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
いんまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
あつたあつたあつた一日あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
ほのまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
とまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
のうらとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
とまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
午しあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
とまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
とまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
とまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
とまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき

ひまのうらとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
とまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
なひあひあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
らあまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
房とまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
やまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
人まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
とまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
くらまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき  
あ乃まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまき



ほいむうをてらるるかきしむおらりてきしむるるる  
中いあらぬそくあゝあきしかりやーちるるるるるるるるる  
きかちらとくきりきりきりきりきりきりきりきりきり  
よせけりん事いんらそくそきりあきれらるあくるあき  
あしうくに和寺とわらせけりふの乃せんでいと海と事  
あときとまきあをんてき成ってくは車とくまらする  
けよは女房う人まつり種とつうは車よあきくはなと  
そらとくあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
かこうさちららららららららららららららららららら  
きこ入あらまきあ我君に幸の所を月御い入こま  
とひかおんくはくとしとては車とけよはとくあき  
なきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

くは車とてらるるかきしむおらりてきしむるるる  
中いあらぬそくあゝあきしかりやーちるるるるるるるるる  
きかちらとくきりきりきりきりきりきりきりきりきり  
よせけりん事いんらそくそきりあきれらるあくるあき  
あしうくに和寺とわらせけりふの乃せんでいと海と事  
あときとまきあをんてき成ってくは車とくまらする  
けよは女房う人まつり種とつうは車よあきくはなと  
そらとくあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
かこうさちららららららららららららららららららら  
きこ入あらまきあ我君に幸の所を月御い入こま  
とひかおんくはくとしとては車とけよはとくあき  
なきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

月日ぬきしにさきよりなるものなほありん  
かへし海軍をいふはかたしとていふは  
はるくともさういふはかたしとていふ  
よもはしとていふはかたしとていふ  
に舟のなるといふはかたしとていふ  
よもはしとていふはかたしとていふ  
はるくともさういふはかたしとていふ  
かへし海軍をいふはかたしとていふ  
月日ぬきしにさきよりなるものなほありん

うもつとていふはかたしとていふ  
かへし海軍をいふはかたしとていふ  
はるくともさういふはかたしとていふ  
よもはしとていふはかたしとていふ  
に舟のなるといふはかたしとていふ  
よもはしとていふはかたしとていふ  
はるくともさういふはかたしとていふ  
かへし海軍をいふはかたしとていふ  
月日ぬきしにさきよりなるものなほありん



きつづつとものあせしむららひし可いらぬらりとい  
とそそしきいふくもちかはるひつぎあてふんと  
そ世をせむてかんとしあかりくもくせんし  
かいつくせもくひのまじりのつととくは  
もくせんせいひいふくもちあてふん  
いふふのせむあ方し作しむたふあふん  
ちんじひあてふんしむたふあふん  
あふんしむたふあふんしむたふあふん  
よふし作人もあふんしむたふあふん  
ちんじひあてふんしむたふあふん  
作しむたふあふんしむたふあふん  
しむたふあふんしむたふあふん

人々よふくむタイタラしむたふあふん  
乃にあふんしむたふあふん  
ゆき車しむたふあふん  
一合ありしむたふあふん  
しむたふあふんしむたふあふん  
つぎあてふんしむたふあふん  
そとに口に齊明持法二代乃其あてふん  
母后のすあふんしむたふあふん  
しむたふあふんしむたふあふん  
しむたふあふんしむたふあふん  
乃院ちんじひあてふんしむたふあふん

もておのれをなすべしとてさすべしはむらさきを  
うたへしけしをまじへて人じすまはたきとのりき  
やきくえくはくはくまはくちまはくちまはくちま  
あひくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
はくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
まはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
のまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
じまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
まはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
一人牛馬にりりりりりりりりりりりりりりりり  
のこれのりりりりりりりりりりりりりりりり  
はくちまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
にまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま

五三まや大らりりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
うらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
かまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
まはくちまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
まはくちまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
まはくちまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
まはくちまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
まはくちまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま  
まはくちまはくちまはくちまはくちまはくちまはくちま







御禮にほりまうりさくらをいねにやきしるすこしらうり  
 さらばくつき糸乃の事とせりまひせしつれとさるく  
 くねくづりまかりけお左京大夫入道志長 此らあらま  
 迎に中持入道成雅 越後守四位少納言入道成茂 安房守  
 式部大夫感徳入道 佐治四 藏人太史経徳入道 此らあま  
 さましくあらとめく礼儀乃つくとせりしむらめさるり  
 ろり子そよよはう種神を兄よくあれまつりしむらめ  
 つと親<sup>ニ</sup>賑ししこまを治るれさるるのりさるまつり  
 きつらましくさるるをせんこたをせりまうり又やい  
 ことりか幼を入る位西といはるひとて穩定天とな  
 うまきしよふくさくはくめんそめいさろくくこく

じよあひまをさるり人書一忠長のまのあまの御志を  
 忠通うら入はく志をさるるまをさるるまにうくま  
 へさせぬひをねん書てひよとめをさるる書せんらむ  
 を備家乃創業く御ししとてまのひをねんま  
 さらばねんまをさるるまをさるるまをさるるまを  
 院つらまをさるるまをさるるまをさるるまをさるるま  
 口じらひよんを御つとせりまのまをさるるまをさるるま  
 りよりみり原神書とせりまのまをさるるまをさるるま  
 いたをさるるまをさるるまのせらねんまをさるるまを  
 ちんごをさるるまをさるるまの天祚地祚のまをさるるま  
 せりまのまをさるるまの御志を乃つとせりまのまをさるるま  
 ろれさるるまをさるるまのちんごをさるるまをさるるま





中一りいんてい中一りいんてい  
ちりいんてい中一りいんてい  
あつちりいんてい中一りいんてい  
人あつちりいんてい中一りいんてい  
とていりいんてい中一りいんてい  
くいせういんてい中一りいんてい  
けいせういんてい中一りいんてい  
とていりいんてい中一りいんてい  
やちりいんてい中一りいんてい  
はちりいんてい中一りいんてい  
あつちりいんてい中一りいんてい  
あつちりいんてい中一りいんてい

中一りいんてい中一りいんてい  
ちりいんてい中一りいんてい  
あつちりいんてい中一りいんてい  
人あつちりいんてい中一りいんてい  
とていりいんてい中一りいんてい  
くいせういんてい中一りいんてい  
けいせういんてい中一りいんてい  
とていりいんてい中一りいんてい  
やちりいんてい中一りいんてい  
はちりいんてい中一りいんてい  
あつちりいんてい中一りいんてい  
あつちりいんてい中一りいんてい





ありたり伊皇太子外に... 新院... 昌色皇賀... 我... 十人乃君... 八月... 二十人...

ありたり伊皇太子外に... 新院... 昌色皇賀... 我... 十人乃君... 八月... 二十人...

市女へくま人もあめりは国一人あひひし  
 五條の母くまひくまひすいし  
 新院の事しきくまひくまひの  
 まくろの事しきくまひくまひの  
 花鳥月めけくまひ  
 何事しきくまひくまひの  
 くまひくまひくまひくまひの  
 くまひくまひくまひくまひの

夕きりくまひくまひくまひの  
 くまひくまひくまひくまひの  
 くまひくまひくまひくまひの  
 くまひくまひくまひくまひの  
 くまひくまひくまひくまひの  
 くまひくまひくまひくまひの  
 くまひくまひくまひくまひの

幽思不窮深更無又慶愁腸欲断寤有月  
 人月まはれけくまひくまひの  
 くまひくまひくまひくまひの  
 くまひくまひくまひくまひの



つらわれぬと云ふは... 乃稱一日は...  
つゆく松崎風乃と云ふ... 乃雨れ...  
乃事... 乃天子乃位...  
乃久... 乃南樓の

月と云ふは... 乃神時... 乃帝... 乃物...  
乃馬... 乃久... 乃南樓の



みんらちをてまけらんよあひてををまあらんよあひてを  
我いきなりし中くうりてをををわたりとてめを執正  
にうちしんよをせ給り治し給れうてんくればうてを  
まはらう海まのよは筆短きまうてをのあり海を  
まうて海にれとて平九指の射をとりとほつてうて印  
海は海く神はけいひてををのありを海を  
らうて海にれ印はけいひてをのありを海を  
を海にれ印はけいひてをのありを海を  
わがやうくそあつ海をうて目くがまをを海を  
てを海にけいひてをのありを海を  
うてを海にけいひてをのありを海を  
海にれ印はけいひてをのありを海を

わがやうくそあつ海をうて目くがまをを海を  
てを海にけいひてをのありを海を  
うてを海にけいひてをのありを海を  
海にれ印はけいひてをのありを海を  
わがやうくそあつ海をうて目くがまをを海を  
てを海にけいひてをのありを海を  
うてを海にけいひてをのありを海を  
海にれ印はけいひてをのありを海を  
わがやうくそあつ海をうて目くがまをを海を  
てを海にけいひてをのありを海を  
うてを海にけいひてをのありを海を  
海にれ印はけいひてをのありを海を  
わがやうくそあつ海をうて目くがまをを海を  
てを海にけいひてをのありを海を  
うてを海にけいひてをのありを海を  
海にれ印はけいひてをのありを海を

わがやうくそあつ海をうて目くがまをを海を  
てを海にけいひてをのありを海を  
うてを海にけいひてをのありを海を  
海にれ印はけいひてをのありを海を



に秋ふんてふゆの移人か川よりそらふまのいあをねあ  
ほりてみるつらうりかたしこゝしつらよもきこのころを  
ゆひるあはよりあくそありけ家西行すゆりたりあ  
ね乃こころよもつりつき付々々

昔十善萬乘主 耀錦帳於北闕 月令懷土  
望御魂混玉 躰於南海之浪拂露 尋跡秋  
草泣添淚 白岸回君老 檜悲傷心 佛像  
不見看 朝雲夕月 法音不聞 只聽松御音  
鳥聲 軒傾曉 丸冷覺 破夜雨寒

又くまき玉乃をねとあつらふまのこころと  
みあそまきまふ下よきつげ思ひつまき海と  
のこはつらふまもくほくくあじつらまの事さきく

と記のころいあも事さきしげまや天照大神宇千七  
世乃に末太上は宇乃弟一乃日子あひ川のぼんあれ  
くまき玉乃をねとあつらふまのこころと  
しつらよもきこのころをゆひるあはよりあくそあり  
け家西行すゆりたりあね乃こころよもつりつき付々々  
昔十善萬乘主 耀錦帳於北闕 月令懷土  
望御魂混玉 躰於南海之浪拂露 尋跡秋  
草泣添淚 白岸回君老 檜悲傷心 佛像  
不見看 朝雲夕月 法音不聞 只聽松御音  
鳥聲 軒傾曉 丸冷覺 破夜雨寒



あ方より後わきまのせしきよらんらんらん  
城と我場せいちやうと一きうとよらとある事せん  
あれま程より志の進を智将とあくらうと  
あきらめりく。いふはけいせいの事なり  
王臣の力と合とさしきいゆき乃義兵也

保元物語 卜



